



日本ハム社長・大社氏が講演

目的意識を しっかりと

イメージを膨まそう

【大社啓二（おおこそ・ひろじ）】香川県出身、中央大学法学部法律学科卒業後、1980年日本ハム入社。取締役、専務取締役などを経て、96年同社代表取締役社長に就任。

この日、大社社長は「皆さんの意に添った形での講演会にしたい」と前置きし、「私は自分の考えたことを話すが、皆さんには皆さん自身で考えてほしい。人のいった通りにやるうとして上手くいったためしはないのだから、最後は自分で考えて決めるように」との注意を喚起した。まず強調された点は「皆はいつたい何になりたいのか、どうなりたいか？」ということであった。近年の大学決定志望理由に資格や知名度就職などが挙げられていることに触れ「大学はみんなのゴールではない。皆にとって大切なのは、自分自身がこうなりたい、というものを持つことだ。また、そういうものを具体的にイメージできるか？」と皆に問いかけ、ぜひ夢の実現のためにイメージを多く持つてほしいともいわれた。

続いて、「ご自分の大学生活を簡潔に振り返られた後、「自分のやれなかつたことを話すが皆にとって一番だと思う」といわれ、私の大学生活が良い、悪いというのではなく、みんなの選情報の一つに変えてもえれば幸いだと言われた。また、学生たちには現実の社会の姿を知ってもらいたいと主張された。「世の中親と上司は選べない」ともおっしゃり、不本意な時もあると思うが、事実として受け入れ、その中で成果をあげ実績を築いていくことの重要性を説かれた。最近では特に社会というものの実態を学生時代に体験している人は少ないのが現状で、これは社会との関わりが薄くなっている現代生活を反映している。また、それに関連して人間関係をきちんと作り上げている学生が少ない現状も指摘

人間関係を築くこと

4月12日、日本ハム代表取締役社長、大社啓二氏による講演が新入生に向けて行われた。「大学時代に何をすべきか」がテーマであったが、大学時代の話にとどまらず、広範囲にわたる内容の濃いものであった。会場には新入生が、真剣なまなざしで聞き、中には熱心にメモを取る学生も見受けられた。

（学生記者・土井敬士、真田季実子、中西奈緒）

され、多くの情報収集が可能となり、選択肢が多くなった半面、自分で意志決定をできない人も多くなっている現実を認識してもらいたい。そして、できるだけ若年時にいろいろな異質なことを社会で経験するようにと訴えた。

また、これから何になりたいのか、目標は何かを早く決めて、自分のゴールをしっかりイメージするように、そして、そのために自分が何をしなければならぬかを考えるということを何度も繰り返し返された。一日は24時間しかなく、無駄なことはやるべきではないと、歯切れの良い話を締めくくり、最後には友人でミュージシャンの久保田利伸さんか

大社社長の講演要旨

大学生生活で重要な行為は、物事を自分で一つ一つ判断して決めていくことです。みなさんは一体何になりたいのか、何をしたいのか、どういう人になりたいのか、目指すゴールは何なのでしょう。将来の具体的な「絵」をつくるのが大学4年間ですべきことだと思います。それをどのように具体的にイメージするか

らの大学生活に関する手紙を披露されるという異色の講演会となった。

一社会人として、一企業人として、先輩として人生、社会、企業の全体像を示してくださいと語る講演であった。

外国のスポーツマンに学ぶもの

社長にインタビュー

講演後、大社社長は私たちのインタビューの申し入れを快く受け入れてくださった。

まず、社長の座右の銘はございますか。

特にはありませんが、大事にしていることは、明るく楽しく真剣に暮らすこと、明くるべきかを考えることが重要なことです。

学生にとって社会と接点を持てる代表的なものに、アルバイトが上げられます。しかし、アルバイトは人間関係のプロセスが少なく、実際の社会の中での体験といえませんが、今日、人々と社会とのつながりが薄くなっていく傾向があるといわれます。それは個々のやることを認める時代になってきている、ということでもあります。しかし、このように恵まれてはい

らすことです。明るく、楽しくという簡単なと思われるがちですが、そこにはおのずと結果が要求されます。

プロになれば楽しいだけではダメです。日本のスポーツ選手が大きな大会で「競技」を楽しみたいといっているのとは違います。「真剣に」というよりは「楽しむ」という方がカッコイイかと思っているのかも知れませんが、しかし、外国の選手は「楽しむ」一番になるぞ」ということなのです。現に、タイガー・ウッズが「楽しんで」だ」といった時は必ず優勝しています。

大学時代に心に残る思い出はなんでしょう。

まずは、多摩に中央大学が移ったんですが、あまりに自分の意志で何かを決定する年齢が遅くなってきていると感じるのです。社会というのは人と人の共同生活の場であり、だから個が個として生きるために共生していくルールがあるのです。したがって、人間関係の中に少しでも早いうちに身を置くことが大切だと思えます。また、若い時にしかできないこととして、異質なものにどんどん挑戦することを勧めます。若い人はどんどん他から学ぼうとする姿勢を持っています。

ことで、初めて来た時は「遠い。引越したいといけないな」と驚きました。サークルでは、自分は先輩より学年は下だけれども、年齢的には上なので、先輩も自分と話す時は、

気を使っていましたよ。ここに人間社会の妙があったんですよ。だから自分が自分より年上の部下と話す時は気配りをしますね。しかし、いまはインターネットや自分の部屋があるなど、共同・集合体よりも個人というものが強く現れてきている。それに伴い、対人関係が少なくなり、気遣いも少なくなっているのではないのでしょうか。例えば、電車の中でウォークマンなどで音楽を聴く時、音が漏れて他人に迷惑をかけることを考えないことなどです。

最後に「仕事」とは、ずばり何ですか。

ウーン、一般的にいうと生きていく糧だね。これはしょうがない現実ですね。そして生きがい達成することです。生きがいというのは、公と私とが別々に存在し、バランスを保たなければいけない。また仕事は、自分が成長する上で、プライドや価値を高めていくものだと思います。